

ダンスと風俗営業法 ～ダンス文化をもっと広めるために～

帝京大学 川上ゼミ

○根岸 桃子 石橋 一輝

早坂 祐季 矢部 智奈美 梁瀬 雄大

1. 緒言

ダンスは、「ヒップホップ」「ブレイキン」「ジャズ」「ポップ」「ロック」「レゲエ」「ハウス」など一般的な7種類あるとされている。また「社交」や誰もが一度はやったことのある「フォーク」も加えられるだろう。ダンスは平成24年度より中学校、高等学校で体育の必修科目になり、子供たちや親からも注目されてきている。ダンスはひとりで踊ることもさることながら複数人で踊ることで仲間とコミュニケーションを取ることができ、多くの人々とつながることができる。みんなで踊ることで楽しくなり笑顔が溢れる。そこで、本論ではダンスを通じた豊かな社会形成に作りついで提言するものである。

中学校、高等学校の体育で必修化されたダンスでは「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」のうちの1つが義務付けられた。「現代的なリズムのダンス」とはストリートダンスであるヒップホップのことを示す。1974年11月にアメリカのブロックパーティーで生まれたヒップホップは、ラップ、DJ、ダンス、グラフィティの四大要素からなり、ヒップホップはPeace（平和）、Unity（団結）、Love（愛）、Having fun（楽しむ事）の精神から生まれたと言われている。このヒップホップが日本に入ってきたのは最近のことだ。学習指導要綱にはこのヒップホップを通じて、運動の楽しさ、みんなで踊る楽しさや喜び、互いの良さを認め合う、コミュニケーションを学ぶことを目的としていると記載されている。私たちはこのストリートダンスに注目したい。

子供たちが学校でダンスをする一方で、ダンスを風俗として位置づけて規制している法律が存在した。それが風俗営業法である。この風俗営業法とは、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律のことであり第2条で定義されている「客に飲食や接待などを行い、又は、一定の設備で遊興させる営業のこと」を言う。キャバレー・料亭・ディスコ・クラブ・パチンコ店・ゲームセンターなどがこれに該当するが、ダンスもこの規制対象の中に入っているのだ。

2015年6月17日に風俗営業法が改正され、ダンス教室の営業や10ルクスを超えての営業、酒類の提供の有無等によっては、許可を取らなくても営業できるように改正された。しかし子供たちの必修科目であるダンスが、法律で規制されなければならないか。私たちはそこに疑問を感じた。

現在、風俗営業法における、ダンス営業の規制を緩和する「改正風俗営業法」が2015年6月17日に成立した。（図参照） 本法案は1年以内に施行され、クラブは条件付きで朝ま

で営業できるようになる。改正された風俗営業法のポイントは、「ダンス」に着目した規制を取りやめ、ダンスを含む「遊興」全般として取り締まることにある。クラブは「特定遊興飲食店」として許可を受ければ、夜通し営業できるようになる。

風俗営業法はこれまでも、飲食店が午前0時過ぎにお客様に「遊興」をさせることを禁じてきたが、警察庁の解釈運用基準によれば、「遊興」

とは、①不特定多数の客に歌やダンス、ショー、映画などの興行を見せる ②バンドの生演奏を聞かせる ③のど自慢大会など遊技やゲーム競技を行わせるなどの行為を示す。

従来は違反しても営業停止となるだけで、刑事罰に問われることはなかったが、改正法ではアルコールを提供する店が許可なく深夜に遊興をさせると懲役2年か罰金200万円、もしくはその両方が科されるようになった。

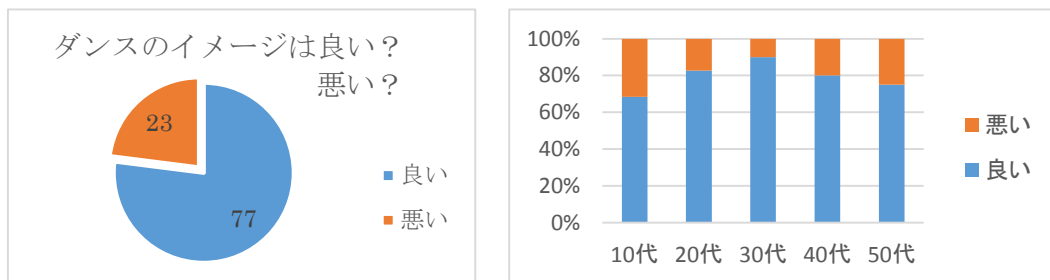
そもそも風俗営業法は第二次世界大戦後にダンスホールで売春が横行したために作られた法律であるため、風俗営業法の中では、現在のダンスに売春の可能性があるということの意味しているといえる。しかし近年そのような事例は見当たらない。では、なぜ規制の対象になってしまったのか。それはダンスがクラブで深夜に踊るイメージがあることや、外国から最近入ってきた文化であること、また見た目に対するイメージの悪さが原因ではないかと考えた。

ここで私たちは「風俗営業法によるダンスの規制には、ダンスへのイメージが悪いから」という仮説のもと、ダンスに対するイメージの調査を実施した。

2. 街頭インタビュー調査

私たちは、「風俗営業法によるダンスの取り締まりがあるのは、ダンスのイメージが悪いからである」という仮説のもとダンスのイメージ調査を実施した。本調査では多摩地区で男女100人（属性は以下図参照）に対して街頭インタビューを行い「ダンスのイメージは良いか？悪いか？」の質問より以下の結果が得た。

図 「ダンスのイメージは良いか？悪いか？」インタビュー結果



上図より77人がダンスのイメージが良いと回答し、約8割の人がダンスに対して良いイメ

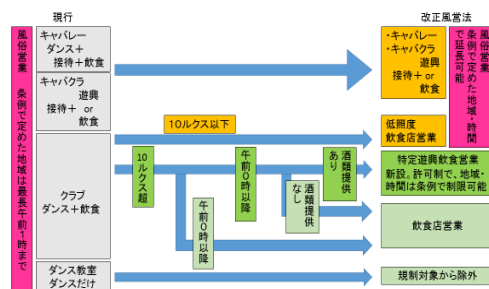


図 客にダンスをさせる営業の規制見直し

出典：朝日新聞

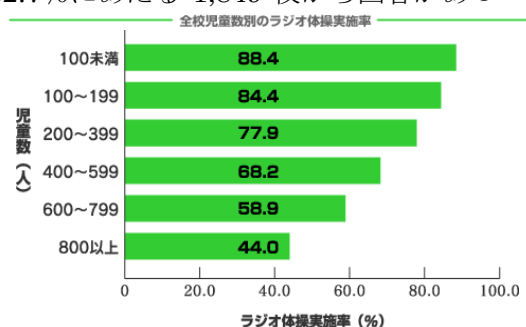
ージを持っていることが見て取れる。以下が主な回答理由である。

- ・協調性が身につく（40代女性）
- ・知らない人とでもコミュニケーションをとろうと努力する（40代女性）
- ・健康になる（50代男性）
- ・みんなと感動を味わえる（40代男性）
- ・団結力と努力を感じる（40代男性）
- ・同じ人間でこんな表現の発想があるのかと驚く（20代男性）
- ・年齢、性別問わず誰でも楽しめる（20代男性）

このインタビューからダンスへのイメージは悪くないことがわかり、むしろダンスへのイメージは良いということが見て取れる。一方で、ダンスへのイメージが悪いと回答した人の中には「見た目が怖い」「難しそう」「できなそう」などの理由が挙げられた。これらは、私たちの考えた仮説とは異なった結果であった。ダンスのイメージは良い、そして中学校、高等学校の体育ではダンスが必修化されている。ダンスをもっと広めるためには、たくさんの人が気軽に簡単に始められるダンスが必要なのではないか。たくさんの人がダンスをすれば、現在のダンスにとしている風俗営業法もさらに緩和されていくのではないかと考えた。

3. 「ラジオ体操」から「マルチメディアダンス」（仮称）へ

その昔わが国には夏休みの早朝、皆で集まり体を動かす「ラジオ体操」なる軽運動が活発に行われた。ラジオ体操については、こんな調査があった。簡易保険加入者協会が平成16年11月に行われた、現在の小学校においてラジオ体操がどの程度実施されているかという調査を全国の小学校から2,951校を抽出し行い、62.7%にあたる1,849校から回答があった。調査結果によると、ラジオ体操の実施率が低いのは、行政区域でいえば大都市地域、地方別にいえば関東、地域特性別にいえば住宅地や商工サービス業地域である。そして児童数でいえば、大規模の小学校で実施率が低くなっていて、児童数100人未満の小学校と児童数800人以上の小学校とでは、88.4パーセントと44.0パーセントと、実施率に2倍以上の開きがあることがわかった。このことは、ラジオ体操は村落的な地域で実施率が高く、大都市的な地域では実施率が低いといえる。



ラジオというものから離れてきている現代、ラジオ体操も新たなマルチメディアへの移行が必要なのではないか。

4. 提言

私たちはダンスをもっと広める施策として3つ提言する。

- ① ラジオからマルチメディアで対応できる新たなダンスの提案
- ② ①を推進するための場、空間の提案
- ③ ①②を、実現、加速させるための風俗営業法の再改正

※本モデルについての詳細は当日のプレゼンテーションで説明する

あらゆるマルチメディアに対応できる新たなダンスを制作し、運動能力低下、ラジオ体操実施率減少傾向にある都市部の小学校に対して実施する他、幅広い年齢層対し提供するものである。具体的には誰もが知っていて、やったことのあるラジオ体操をヒップホップと組み合わせ、ダンスを制作し、準備運動の代わりにや朝のちょっとした時間に小学校などで行う。「ラジオ体操」改め「マルチメディアダンス」（仮称）は誰でも気軽に始められるダンスであること、簡単であること、深夜などではなく、昼間や太陽の下でできるものである。なぜダンスをやるのか、ダンスには以下の3つメリットがあるからだ。

- ① コミュニケーションを取ることが出来る
- ② 柔軟性や敏捷性といった健康向上
- ③ 協調性、仲間意識が身につく

冒頭で述べた、ヒップホップはPeace（平和）、Unity（団結）、Love（愛）、Having fun（楽しむ事）精神を持つということを多くの人に共有したい。そのためにも「マルチメディアダンス」（仮称）を多くの人々に普及させ、ダンスの文化に気軽に触れてほしい。そうすることによって、ダンスを規制しているであろう風俗営業法による障害が希薄化され、さらにダンスは普及していくと考える。これによって我が国はもっと人とのつながりが強くなっていくだろう。昔、皆で楽しく「ラジオ体操」をしていた時代のように。

<参考文献>

学校体育指導要綱

<http://www.nier.go.jp/yoshioka/cofs_new/s22ejp/index.htm>

HIPHOPの歴史

<<http://dancebeat.biz/basic/hiphop.php>>

風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律

<<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23HO122.html>>

朝日新聞 クラブの深夜営業、条件つき可能に 改正風営法が成立

<<http://www.asahi.com/articles/photo/AS20150617001284.html>>

「小学校におけるラジオ体操の実態調査」結果の概要

<http://www.radio-taiso.jp/taisou/shiryou/h16_research_01.html>